

◎御書と歩む——池田先生が贈る指針

教学は生命の宝剣だ。剣豪が基本の素振りを怠らぬように、たゆまず御書を開くのだ。教学を磨き深めれば、境涯が広がる。友に希望と勇気の励ましを送ることができる。どこまでも御書根本に、「広宣流布」と「立正安国」の確信の対話を！

(聖教新聞 2017 年 4 月 20 日付)

◎「開目抄」講義

謗法を打ち破る深い信によって妙法の太陽が胸中に赫々と昇れば、私たちの生命には仏界が涌現します。すると、これまで私たちを苦しめていた地獄の苦しみも、直ちに消えるのです。まさに、晴れやかな大晴天の輝きの前に、一切の重罪は消え果てていくのです。

宿業の苦しみは断じて消える！

不幸の闇を払い、勝利の太陽が昇る！

これが日蓮大聖人の大確信であります。まさに、宿命転換の仏法とは、希望の宗教であり、幸福革命の宗教の異名にほかなりません。

(『池田大作全集』 34 巻 249 ページ)

◎御義口伝

「難来るをもって安楽と意得べきなり。」

(御書新版 1045 ページ・御書全集 750 ページ)

◎椎地四郎殿御書

「大難来りなば、強盛の信心いよいよ悦びをなすべし。」

(御書新版 1720 ページ・御書全集 1448 ページ)

◎青春対話

人生の目的は何か。「勝利者」になること、「幸福」になることだ。

では「幸福」とは何か。その中身は「充実」です。充実のうえに、自分なりの満足の栄冠を勝ち取ることです。

では「充実」とは何か。「苦難」と戦うことです。苦難がなければ充実はない。充実がなければ幸福ではない。何の苦労もない幸福など、どこにもない。

皆、この“戦う”という途中の道を忘れて、幸福という結果だけを求めている。苦難を乗り越えていくことが、充実の幸福なのです

(『青春対話 II』 183 ページ)